

日本管楽合奏コンテスト全国大会



加藤市長らを迎えた受賞報告会で笑顔を見せる吹奏楽部員たち

多彩な楽器で秀逸の演奏

第26回日本管楽合奏コンテスト（日本音楽教育文化振興会主催）が、11月7日から22日までインターネット上で開催された。21日には高等学校S部門（3人以上15人以下）の審査が行われ、名寄高校吹奏楽部が見事最優秀賞に輝いた。

42種類の楽器を駆使

今大会は新型コロナの影響により動画審査で実施。10月の録音審査で全国大会出場権を得た名高吹奏楽部は、10月24に美深町文化会館COM100で「リバーダンス」を

名寄高新聞

吹奏楽特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021.1.22

発行責任者 内村 太一

第2018号(20-49)

吹奏楽部が全国最優秀

収録。「リバーダンス」はアイルランドの歴史や神話、伝承を伝えるショーのために作られた音楽。アイリッシュ・アメリカンの歴史や多様な民族との交流が描かれている。

吹奏楽部が全国大会で演奏したのは「太陽を巡るリール」「クラウドソング」「リバーダンス」の3曲をメドレーにしたもので、顧問の山本真平先生が編曲した。少ない人数で多彩な音を奏でるために、部員たちの多くが複数の楽器を担当。合計42種類もの楽器を使用して演奏した。

曲はオーシャンドラムの砂の音と管楽器による川のせせらぎのような神秘的なメロディから始まり、チャイムが鳴ると低音楽器が優しく心地よさを表現。そこにシンバルや他の管楽器が加わり雄大な雰囲気へと変化する。その後、マリンバなどの打楽器が軽快なリズムを作り、管楽器もテンポアップする。調和した響きが聴く人を魅了



受賞報告会で心を込め演奏する吹奏楽部の皆さん

する。民族の踊る姿を思わせる管楽器の掛け合いが、さらに勇ましい雰囲気へと引き込む。その後、太鼓のエネルギーと足踏みのリズムで盛り上げ、空気を最高潮に変える。明るいリズムを管楽器が奏で、タンバリンなどが背景となってテンポを上げ、その後再びマリンバと管楽器が軽快ながらも情緒溢れる音を表現。高まった雰囲気をそのままに魅惑のメロディを奏でる。そして打楽器が入り、曲はクライマックスへ。全員が一体感と迫力ある演奏を響かせた。

この秀逸した演奏の結果、名高吹奏楽部は堂々の最優秀賞を受賞（出場18校中6校が最優秀賞）。初の全国大会で快挙を達成した。



加藤市長らの前で情緒溢れる響きを奏でる名高吹奏楽部

(裏面へ続く)

市長を迎える受賞報告会

加藤市長「皆さんの活躍は地域の誇り」



加藤剛士市長(中央)と東千春議長に受賞報告をする水口綾乃部長

12月17日の放課後には本校視聴覚室で、加藤剛士名寄市長と東千春名寄市議会議長を迎えて最優秀賞受賞報告会が行われた。

加藤市長らが入室すると、吹奏楽部員たちが吹奏楽の定番曲でもある「宝島」を歓迎演奏。サンバ調の明るい曲に合わせ、部員たちはポンポンを使い、市長らの来場を華やかに盛り上げた。

開会の言葉の後、水口綾乃部長(2A)が「予選は録音審査だったため朝日サンライズホールで2日間合宿を行い、良い録音ができるように集中して練習しました。全国大会に出場できることをホームページ上で発表されたとき、部員は驚くとともにもっと頑張ろうという意識が湧いてきました。全国大会は録画で行われたため、美深COM100で録画を行いました。いつもと違う感覚に緊張



挨拶をする加藤剛士市長(左)と東千春議長

しましたが、私達らしい心のこもった演奏ができたと思います。結果は自分達の努力してきた演奏が認められ、最優秀賞という素晴らしい賞をいただくことができました。これからもソロ・アンサンブルコンクールなどの行事に向けて部員一同協力してさらに頑張りたいと思います」と最優秀賞受賞の報告をした。

その後、司会の工藤優妃奈さん(2B)が「リバーダンス」演奏時には多彩な音を奏でるために、多くの楽器を使用していることを説明。さらに「リバーダンス」について、「山の奥で生まれる一滴のしづくが川を経て海へ、そして最後は一気に水蒸気となる。そんな自然の摂理や人間の営みを感じられる作品です」とその雄大さを語った。そして、「私達としてはこの『リバー』は天塩川だと

思っています。北海道の源流ともいえる天塩川のほとりで暮らす私達にしか演奏できない、名高吹奏楽部の『リバーダンス』をお聴きください」と述べ、演奏を始めた。

演奏終了後、加藤市長は「第26回日本管楽合奏コンテスト最優秀賞という、素晴らしい成果を認められた皆さんの活躍は地域にとって本当に大きな誇りです。聴かせていただいた演奏は最優秀賞と納得できる、本当に素晴らしいものでした。コロナ禍で厳しい1年だったと思いますが、こうして1年の締めくくりで素晴らしい成績を認められ、私にとっても大きな喜びです」と笑顔を見せた。

続いて、東議長は「皆さんのニュースを聞いて本当に嬉しく思いました。コロナ禍で工夫をしながら行った練習の成果が現れたものと思います。いつもと違う時にも目標に向かっていく力は大切です。今回、皆さんは立ち



司会進行する工藤優妃奈さん

向かっていく術を身に付けたと思います」と称えた。

集中を高め良い部分出せた 水口 綾乃 部長

出せた。

今後は良いときと悪いときの差を埋めたり、集中力を高めたい。コンクールでは技術と団結力を向上させたい。

COM100に行って録画を始めたときは緊張感が出て、一人一人が集中を高められていたと思う。今までよりも良い部分を

人に聞いてもらう機会が少なくなってくると思うので、部活の仲間などで聴き合ったりしてお互いに高め合っていく。

まだまだ可能性がある 山本 真平 顧問

今回はウェブ審査ではあったが、結果発表されたときは一生懸命やったことが評価されて嬉しかった。周りからも「おめでとう」と言ってくれる人がいた。名高吹奏楽部にはまだまだ可能性があると思うので、自分に妥協しない練習をしていきたい。

何かを経験したり体験したときには成

長するということを改めて実感した。今年はいろいろなことが制限されていたが、の中でも練習やコンクールなどの経験をしたことが今回の結果につながったと思う。

一人一人が納得のいく演奏をするために、部員同士で感想を書くなどして認め合う雰囲気を作っていくたい。